

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2391200033		
法人名	社会福祉法人 ゆたか福祉会		
事業所名	グループホーム 宝南の家		
所在地	愛知県名古屋南区元塩町3-1-1		
自己評価作成日	平成23年9月6日	評価結果印刷受理日	平成23年11月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 福祉総合研究所		
所在地	名古屋市東区百人町26番地 スクエア百人町1F		
訪問調査日	平成23年9月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者の方達が、自立した生活を長く維持できるように、また心穏やかにホームの生活が続けられるよう家庭的な雰囲気や大切にしながらも、健康管理については細心の注意を払っています。利用者の皆さまの1番の楽しみのお食事については、薄味を基本として栄養管理をしながら皆さまの希望されるメニューを取り入れております。又、一人一人の状況に合わせて食べやすさなど工夫しながら調理をしています。季節の行事に関しては、お雛様や節句人形を飾ったり、盆踊りや地域のおまつりなどにも参加しています。お花見の時などは手作り弁当を作り、バースデー会の際は、カロリー控えめのケーキを作り皆さんでお祝いです。地域の方との交流や春と秋の日帰り温泉旅行なども楽しみにされています。防災については、年1回地域の消防団の協力のもと防災訓練を実施し、夜勤時の防災訓練も全職員2回行っています。9月からスプリンクラーの取り付け工事を予定しており10月には設置できる予定です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員は利用者の重度化が進む中で、その人に見合った生活が送られるよう、毎日唱和している理念に沿った支援に努めている。利用者の体調変化が多い中、家族とのコミュニケーションや情報交換をこまめにしよう心がけ、時間をかけて話し合いをし、不安を抱え込まないよう家族支援も大切にしている。利用者への“気づき”が増え、個別ケアの充実が図れるようになった。利用者が楽しみにしている食事は、利用者の好みを献立に取り入れ、職員の手作りで提供されている。旬の野菜などを積極的に使い、栄養バランスを考えた食事は利用者や家族の満足度が高い。今年8月に管理者が交代となったが、今までと変わらず相撲甚句やハーモニカ演奏などのボランティアを積極的に迎え入れ、地域交流に力を入れている。今後の取り組みに期待ができるホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが		

いざ有頃口 . 40)

4. ほとんどいない

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の申し送り時に、分かり易くした理念を暗唱しており今後は「高齢者のバリデーション」に変更し、より利用者への介護の充実につながるように心掛けている。	毎日利用者と一緒に理念を唱和することで、自分たちのホームは自分たちで作り上げるという気持ちが持たれている。また職員は理念に沿った支援をすることで、介護の方向性が統一されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎日のお買物や、学生さんのボランティアの受け入れ、地域の方達による演芸会などのつながりを持ち、今年からはゴミ当番を引き受けて利用者も一緒に立ち当番をするなど地域の方との交流をしている。	フラダンスやメークセラピー、学生のサマーボランティアなどを受け入れ、地域交流が定期的に図られる機会が持たれている。ホームの認知度も今ではかなり高くなってきている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	社協での認知症学習会では、チューターとして参加したり、地域の方からの個別的な相談にも乗るなど地域とのかかわりを大切にしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では地域の方との交流が継続しており、毎年取り組んでいる「日帰り温泉旅行」では利用者家族の参加や、委員の方の紹介を通してボランティアさんが増えてきている。	家族や生き生き支援センターの職員などの参加協力が得られ定例化して実施できるようになっている。行事の計画やボランティアの紹介など、家族や市の職員と情報交換しながら、サービスの向上に繋げている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	南区の南部いきいき支援センターの方が運営推進会議に可能な限り参加して下さるようになり、お互いの情報交換をするように努めている。又、生活保護の担当者の方とは、必要に応じて連絡を取り合い協力しあっている。	生活保護の担当者には、利用者の身体状況や日々の様子などをその都度円滑に報告するようにしている。何かあれば相談ができる体制を作っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	昨年は全職員が拘束体験をして一人一人の感想を会議で話し合い、この体験を通し身体拘束をしない事を原則として介護に取り組んでいる。また転倒や排泄などの危険がある場合は、ご家族に相談をして理解と同意を得ている。	昨年12月、職員全員が身体拘束体験を実施した。実際に利用者の立場に立つことで、今まで気が付かなかった苦痛や圧迫感などが分かり、日々のケアの体制を変えることができた。サービスの質の向上に繋がられている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	細心の注意を払って防止に努め、職員会議などでも話し合い拘束体験をして気づいた点など振り返り虐待のないように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護センターの仕事をされている運営推進委員の方に協力していただき学習会を行い、権利擁護について学ぶ事ができた。又、次回の職員会議では成年後見制度のパンフを基に話し合う予定をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には前もって書面に目を通していただき、その上で説明を行なうなど理解と納得を得よう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置しているが、投函されていないので、無記名のアンケートを実施し結果について職員会議で話し合い、ご家族にもアンケート結果を送った。又、家族の方が訪問された時には、職員に質問や相談などをしてくださる事がある。	利用者の重度化が進んでいるが、希望が出れば家族と協力しながら外出支援などに力を入れるようにしている。また意見や要望が出た際は、職員間で話し合い、出来るだけ支援に反映できるよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常では職員専用の連絡ノートを活用して個人的な意見を書いている。今年から、2ヶ月に一度の職員会議を定例化し話し合いの時間を持てるようにしている。	業務に関する意見は会議で意見を出し合い、よりよい職場環境にするよう心がけている。7月より管理者が交代となったが、職員間のコミュニケーションは密に取れている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務表を作成する時は、労働時間などを考慮して、可能な限り希望を取り入れるようにしている。 今後は、皆で協力しながら年に1～2回は5～6日の連休をとることができるようにしたい。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内での研修は困難な為法人外の研修を位置づけ保障している又日々の業務の中では科学的な根拠を持つ事の大切さを教えている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	当ホームでは名会研、南区介護事業者連絡会、なごや南東部グループホーム交流会に加入しており2ヶ月に1度の交流会には積極的に参加している。又今年度は、日本認知症グループホーム交流会にも加入した。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	身体の不調や不安、要求などを言葉で表現することができない方もみえる為、一人一人のしぐさや行動などをよく観察して必要な援助を早めに行うように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居されるまでに1～2回は当ホームの見学や説明を行い、ホームに来れない家族には連絡をとり合い家族の思いや要望を聞いて利用者や家族の方が安心して生活できるように努め、希望時には電話などで連絡が取れるように支援している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	当ホームに入居された後、必要と思われる往診や居室の変更など本人や家族と相談しながら決めており又共同生活が困難と思われる場合は利用者や家族にとって何が1番必要な支援かを家族やケアマネジャーと話し合いをかさねている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自分で出来る事は見守りで、出来ないことは援助をして、職員も利用者の方同士もお互いに助け合いながら同じ時間を楽しく共有できるようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会に来られる方達がいつでも気兼ねなく来ていただけるように出迎えている。利用者の方達をホームの内外でともに支えあえるよう関係作りに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族以外で面会にみえる方達へのおもてなしも含め、馴染みの人との関係が途切れないように誕生日会の時に招待し、一緒にお祝いをしていただくなどの支援をしている。友人との外出や冠婚葬祭などにも行けるように支援している。	家族の協力を得て、冠婚葬祭に出席するなど利用者の馴染みの人との関係継続を大切にしている。利用者の友人などの面会時には丁寧なおもてなしを心がけ、いつでも気軽に足を運べるホームにしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、居間の座る場所なども工夫して疎外感や孤立をなくし楽しく生活が出来るように取り組んでいる。利用者も2日に1回は「私たちの思い」の理念を読み合わせて、そうだねそうしようと話している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設へ移られた後は面会に行き、亡くなられた時には弔問に行くなどして経過をフォローし相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	今年からは野菜作りをしたり、晩酌をする方がみえ、その人らしい暮らしができるように、その人の思いや希望に添えるように支援している。	優しい言葉かけをする事の大切さ、利用者の思いを汲み取る事の難しさ、常日頃の言葉、表情、行動などで感じ取る事が大切であるなど、職員間で利用者への対応について定期的に話し合いの場がもうけられている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居される時の情報などで知ることとあわせ、入居された後に入浴時や日々の会話から情報を得る事も多い。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員全体で情報を共有し1人1人の生活リズムや健康状態などを把握しながら統一した支援を行えるように努めている。今後の課題として職員会議の時にモニタリングの時間を作る予定		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は利用者や家族の希望。必要と思われるケアを中心に立案しており、今年から受持ち担当を決め「私の姿シート」を担当者が作成、受持ち担当を決めたので個別ケアができ、さらに寄り添ったケアを実施できた。	利用者の担当を決める事で、職員が記録を残す意識を強く持つ事ができ、利用者のより細かな情報が介護計画に盛り込めるようになった。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画が日々の実践に活かせるように工夫をし職員間で統一したケアが行えるように情報を共有しあえるよう個別ファイルに変化や追加点などを記入している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設しているデイサービスで行われる演芸などを広々とした空間で楽しんでいただいている。利用者で入院や手術が必要となった場合は、付き添いなどについて、ご家族と相談しホームとしても出来る限りの協力を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	気候の良い日などは地域のゴミ当番の時に利用者の方も一緒に参加し地域の方と言葉を交わしたりしている。健康福祉まつりなど地域の行事も、利用者の楽しみになっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回ホームドクターの往診を受け必要時は皮膚科往診、歯科往診、眼科など適切な医療を受けられるよう支援している。医療機関とは連絡ノートを利用し情報を共有している。	月2回の定期的なホームドクターの往診が実施されている。様々な専門医への受診を家族と連携して行っている。主治医と相談し、リハビリやマッサージも行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の看護師の勤務日にはそれぞれの利用者の情報交換をして看護師の目からみた助言や指示を受けており、勤務日以外でも利用者の容態の変化時には連絡をし対応してもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院前の通院なども一緒に付き添い、入院した際も医師や看護師と情報交換をし安心して治療ができるようにフォローをしている。また洗濯物などを取りにこまめに顔を出して関係が途切れないようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化方針に基づいて本人や家族と話し合い、相談や連絡を重ねて、ホームとして可能な限り希望や要求に添うように努力し本人と家族にとって最善の方法を考えている。	入居時に重度化対応指針について説明し、同意を得ている。状況に応じて、家族との話し合いの機会を設け対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	実際の利用者の急変時や事故発生の際には、事故報告書やヒヤリハットなどを通して職員間で話し合い統一した対応ができるようにしている。また、何かおかしいと思ったら受診するように心掛けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	ALSOKの定期点検の立合い、夜間の防災訓練も年に2回利用者の協力を得て行っている。地域消防団からは救命救急時の対応、避難誘導、消火訓練などの指導及び実施訓練を年1回受けている。9月からスプリンクラーの取り付け工事を予定しています。	10月初めにスプリンクラーの取り付け工事が完了予定である。東日本大震災をふまえ、地域の消防団と津波を想定した相談、避難先の確認など積極的に取り組んでいる。職員間の緊急連絡網が整備され、周知されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人権の尊重の点からも日常的に気をつけている。一人一人の個性を尊重し、その人に合ったケアを実施している。耳の遠い方には耳の近くで、ゆっくり低い声で話すようにしている。	食事がすまない方への声掛け、排泄面での行動など、その都度個人の思いを尊重して対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常的な会話の中で本人の思いや希望を聞き、その人らしく生活ができるように支援している。食べたい物や行きたい所など利用者の方から出される希望にも添うように心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	遠慮されている利用者の方もみえるかもしれないので利用者の方をよく知り、何でも話しやすい関係づくりを心掛けている。仏壇のある方が毎夕お茶をお供えされている事を知り、気兼ねなくお茶を替えられるように配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝お化粧をする方やしっかり頭髪を整える方、服に着替える前に口腔ケアをする方など、それぞれ自分のペースで生活されている。2ヶ月に1回ボランティアの方に来ていただき希望される方は散髪をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	行事食のチラシ寿司、いなり寿司おはぎ作りの時などは利用者の方と一緒に皆さんで賑やかに食事作りを楽しみ、日々の暮らしでは食事の後片付けや、もやしのひげとりなど利用者の方と一緒にやっている。	日頃の会話から、献立の希望を聞き出し実現している。行事や季節に合わせて献立を考えている。誕生日のケーキなどは、砂糖を減らすため手作りとし、利用者の楽しみと健康を両立させる工夫を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養のバランスを考え医食同源の献立となるように心がけ、又一人一人の状況に合わせて食べやすい形で提供している。毎日利用者全員の飲水量を把握して個人ファイルに記入している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に歯磨きをしていただいております、ご自分で出来ない方は介助し、義歯のある方は毎晩消毒をしています。歯科往診も利用して口腔内の清潔と予防を行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	リハビリパンツを使用しているかたもすべてトイレでの排泄を支援している。時間を決めてトイレ誘導を行い失敗の回数を減らす取り組みも行っている。	重度化してもなるべくトイレでの排泄に心がけ対応している。昼夜問わず利用者それぞれの時間で声掛けを行い誘導している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	小腸に異常が見つかった方があり、その方は常に便を軟らかくする必要がある為下剤を時々使用しているが他の利用者は食事の工夫や飲水のすすめ、リハビリ体操などで便秘になる方は少なく、下剤を服用される方は殆どみえない。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日、時間帯は一応決めているが、一人一人の気持ちを大切に拒否される時もタイミングをみるなどして個々の利用者にあつた支援をしている。	曜日、時間帯はある程度決めており、週3日入浴している。利用者の状況に応じて、清拭、足浴なども行っている。浴槽が少し深くなっているため、浴槽への出入りがより安全に行えるように側面に新たに手すりを設置した。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	睡眠パターンを把握し眠れない時などは職員と話をしたり自分から「もう寝る」と満足して居室に戻れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人の薬の処方一覧表を用意し職員は薬の目的や副作用などを把握するようにしている。一人一人に合った服薬方法をして薬を飲み込むまで見届け確実に服用していただいている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人のペースを大切に生活をしていただきティータイムは自分の好きな飲み物で皆さんとおしゃべりを楽しんでいる。気候の良い時は喫茶行楽にでかけている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそつて、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日のお買物や、散歩や喫茶行楽や運営推進委員の方達の協力を得て年2回の日帰り旅行など外出の機会を持てるよう取り組んでいる。ご家族の参加もありボランティアの方達との輪も広がってきている。	利用者が希望を言える雰囲気作りに努めている。日頃から情報収集し、小さな事でも実現するよう取り組んでいる。年2回の日帰り旅行を実施している。毎日の食材の買い出しに利用者も一緒に出掛け、利用者の希望を組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員に委ねられる事がほとんどだったが、個人の財布を渡すと支払いをされる方もみえるので個々の能力に合わせての支援を心掛けている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙を書くかたはみえないが、電話を希望される方に対しては時間帯など考慮しながら支援している。携帯を持参されている方もみえるが、週に1回家族の方が来られ充電などをしてくださっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔に心がけ居間には季節ごとに貼り絵を飾り昭和初期のうたを流し、七夕、クリスマス、正月、ひなまつりなどの季節の行事を楽しんでいる。	ホーム内は季節を感じられるように、貼り絵などが飾られている。毎年の干支の飾りは必ず貼るようにしている。玄関先にボランティアや思い出の写真が飾られており、ホームへの訪問者の目に留まりやすいように掲示されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	おおむねできている。テーブルの座る位置なども気をつけて利用者の方が楽しく過ごせるようにして、ソファではゆっくりと利用者の方同士おしゃべりされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	一人一人の状態に合わせ本人と家族の方と相談しながら使い慣れた家具を置いて居心地の良い居場所づくりを工夫している。	利用者それぞれがなじみの物を持ち込み、利用者が落ち着ける環境となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物は階上と階下の作りになっているが、各フロア共バリアフリーとなっている。階段の両側には手摺りを設置し、障害を持ったときも車椅子での生活が送れるように洗面台や鍵の位置も工夫している。トイレには大きな字で「トイレ」「便所」と書いて分かり易くしている。又、居室入り口には表札と顔写真(希望時)を取り付けて各利用者の居室がわかりやすいように工夫している。		